

# 調査の概要

## 1 調査目的

本調査は、県民の価値観や行動志向、行政への評価・要望など、県民生活の基本的な意識の経年変化を大きな潮流として捉えることにより、政策形成、施策運営の基礎資料を得ることを目的とした。

今回は、年次テーマを「地域を舞台にした県民主体の地域づくり」とし、県民交流広場事業、地域子育てネットワーク事業、地域ぐるみ安全対策事業等、県民主体の地域づくり手法をめぐる県民の意識やニーズ、参加意欲等を調査した。

## 2 調査設計

- (1) 調査地域 兵庫県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 5,000人
- (4) 調査方法 郵送法（ハガキによる督促1回）
- (5) 調査時期 平成16年11月18日～12月14日
- (6) 県民意識調査懇談会

設問作成にあたり、県民意識調査懇談会を設置して、下記の学識経験者から指導・助言を得た。

[五十音順]

北浦 かほる	(帝塚山大学教授)	野崎 隆一	(ひょうご市民活動協議会代表)
越川 正三	(関西大学名誉教授)	森 綾子	((特)宝塚NPOセンター事務局長)
立木 茂雄	(同志社大学教授)	吉田 三千代	(サカイビ'ング新聞社 情報企画部長)
鳥越 皓之	(筑波大学教授)		

## 3 回収結果

回収数 3,040 (60.8%)

地域別標本数・回収数

地域	標本数	回収数	回収率	集計対象数	無効票
神戸	500	271	54.2	256	15
阪神南	500	277	55.4	266	11
阪神北	500	297	59.4	282	15
東播磨	500	321	64.2	306	15
北播磨	500	300	60.0	288	12
中播磨	500	289	57.8	276	13
西播磨	500	349	69.8	336	13
但馬	500	331	66.2	315	16
丹波	500	315	63.0	298	17
淡路	500	290	58.0	279	11
合計	5,000	3,040	60.8	2,902	138

回収票のうち、白紙回答などを無効票とした。

## 調査結果のまとめ

### 1 「県民主体の地域づくり」についての意識

#### (1) 地域や地域活動に関する意識

地域に対する意識 - 地域に愛着を感じる、地域の人には頼りになるが、つきあう時間がない。  
地域活動に取り組む動機 半数近くが「自分の生きがいや生活の楽しみにしたいから」。

#### (2) 地域の安全についての意識

犯罪被害への『不安』は70.2%と7割に及ぶ。  
「自分が被害にあった」「家族が被害にあった」ともに乗り物盗が最も多い。「近所の人  
が被害にあった」は空き巣が最も多い。  
地域の安全・安心確保に不十分なものとして、「防犯灯・防犯カメラの設置」(54.5%)に続き、  
「地域の見回りの強化」「地域の犯罪・防犯情報の提供」があげられている。  
地域の安全・安心確保のため、以前からしているのは「声かけ(あいさつ)運動」、今後して  
みたいのは「地域の犯罪・防犯情報の提供」。

#### (3) 子育て支援と地域に対する意識

地域での子どもとのかかわりは、「子どもたちは地域の大人とあいさつをしている」が33.5%。  
子育てを取り巻く環境の問題点の1位は「子育てにお金がかかる」(48.1%)。  
子育て支援に必要な行政の取り組みでは「遊び場など子どもが集える場の整備」(39.7%)が1位。  
子育て支援のため地域で取り組むべきことでは「近隣の親子への積極的な声かけ」(70.8%)が  
1位。

#### (4) 地域づくりのための施設と活動に対する意識

地域の施設の利用頻度 『月に1回以上』は18.0%、『まったく利用していない』がほぼ半数。  
改善すべき点は、「利用する機会やきっかけがない」が半数。  
「地域外の人や団体も含め、普段、施設の運営にかかわってなくても利用できる運営をす  
るべき」が62.6%。  
地域の施設でしたい活動は「キッチンや工房での活動」がトップ。「パネルや作品の展示」  
「図書を通じた活動」等が後に続く。  
地域の施設での活動展開に必要な取り組みは「施設での行事や活動の様子を紹介」(37.1%)  
がトップ。  
地域の施設での活動を支援する主体として「自治会、老人会、婦人会など地域の団体」(31.1%)  
による支援に期待。

## 2 暮らし向きに対する意識

「向上している」と「同じようなもの」の合計は69.7%と前年より15ポイント増、「低下している」は前年より17ポイント減の27.4%となっており、過去最高の平成8年度調査に次ぐ水準。

『満足』（「満足」+「まあ満足」）は52.2%で過去最高の平成8年度調査を上回る。『不満』（「やや不満」+「不満」）は36.6%と過去最低の平成7年度調査を下回る。

## 3 震災に対する意識

今後10年くらいの中に大地震が『起こると思う』（48.9%）と『起こらないと思う』（33.4%）を15ポイント程度上回る。

『起こると思う』が前年度調査を約8ポイント上回り、本設問を設けた平成10年以降で最高となっている。

## 4 県政への意識

『関心がある』（「大変関心がある」+「多少関心がある」）は69.7%を占めるが、前年度調査より約2ポイント後退。平成11年度以降、70%前後で増減を繰り返している。

県政への評価は、「震災からの復興対策」「県政の広報・広聴」「交通網の整備」「国際交流や協力」等が高く、「雇用の安定と職業能力の開発」「交通安全・防犯」等では努力が必要とされている。

#### 4 標本抽出および集計方法

- (1) 母集団 選挙人名簿登録者数(平成16年9月2日現在)に外国人登録者数から推計した外国人県民(成人)数を加えたものを母集団数とした。
- (2) 標本配分 各地域ごとに500の標本数を都市規模別母集団構成比に応じて配分(合計5,000人)した。  
 なお、外国人県民については、各市区町ごとに、母集団(日本人+外国人県民)における外国人県民比率を計算し、各市区町の合計標本数(日本人+外国人県民)に、外国人県民比率を乗じ、外国人標本数を算出した。
- (3) 抽出方法 第1次抽出地点として、平成12年国勢調査時に設定された調査区を使用した。  
 各層で1地点内の標本数が10前後となるよう地点数を決定し、等間隔抽出法により調査地点を抽出した。  
 各地点における対象者の抽出は、住民基本台帳(一部の市町は選挙人名簿)から等間隔抽出法で抽出した。  
 外国人県民については、各市区町ごとに外国人登録名簿等から無作為抽出した。
- (4) 集計方法 各地域ごとの回収数について、全県内の母集団構成比を復元するよう重み付け集計をした。

#### 地域区分



地域名	該当市郡名
神戸	神戸市
阪神南	尼崎市、西宮市、芦屋市
阪神北	伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、(川辺郡)
東播磨	明石市、加古川市、高砂市、(加古郡)
北播磨	西脇市、三木市、小野市、加西市、(美嚙郡、加東郡、多可郡)
中播磨	姫路市、(飾磨郡、神崎郡)
西播磨	相生市、龍野市、赤穂市、(揖保郡、赤穂郡、佐用郡、宍粟郡)
但馬	豊岡市、(城崎郡、出石郡、美方郡、養父郡、朝来郡)
丹波	篠山市、(氷上郡)
淡路	洲本市、(津名郡、三原郡)

## 5 回答者のプロフィール

### (1) 性別 (%)

	男性	女性	無回答
全 県	44.9	54.5	0.6
神 戸	42.6	56.3	1.2
阪神南	45.1	54.9	0.0
阪神北	47.2	52.1	0.7
東播磨	44.4	55.2	0.3
北播磨	50.3	49.3	0.3
中播磨	41.7	58.3	0.0
西播磨	49.4	50.6	0.0
但 馬	47.9	50.8	1.3
丹 波	49.3	50.3	0.3
淡 路	44.4	54.5	1.1

### (2) 年代 (%)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全 県	10.7	15.2	15.5	22.2	21.8	14.1	0.5
神 戸	12.9	14.1	13.2	17.6	26.5	14.8	0.8
阪神南	13.2	20.0	13.5	26.4	15.8	10.9	0.4
阪神北	7.4	14.8	23.8	19.5	18.4	15.6	0.4
東播磨	10.1	16.7	16.0	25.2	23.8	7.5	0.7
北播磨	10.5	13.5	15.6	23.2	23.6	13.5	0.0
中播磨	9.4	14.9	14.5	27.2	19.6	14.1	0.4
西播磨	7.5	10.5	14.6	21.7	22.9	22.6	0.3
但 馬	8.2	9.2	18.1	20.9	22.2	20.6	0.6
丹 波	5.7	11.4	11.7	24.2	23.2	23.8	0.0
淡 路	7.9	14.0	15.4	20.8	20.5	21.5	0.0

### (3) 職業 (%)

	自営・家族従業			勤 め 人				そ の 他			無回答
	農 林 漁 業	商 工、 サ-ビス業	自由業	管理職	専 門・ 技 術 職	事 務 的 な 仕 事	現 業 的 な 仕 事	主 婦	学 生	そ の 他 の 無 職	
全 県	1.7	6.7	3.0	5.7	6.4	14.4	11.4	27.1	2.6	18.4	2.5
神 戸	0.8	6.6	5.5	5.9	6.6	14.1	7.4	30.1	2.7	18.4	2.0
阪神南	0.0	5.6	3.0	7.1	8.3	15.4	9.0	25.9	5.3	18.0	2.3
阪神北	0.0	5.4	2.8	7.4	8.5	13.1	9.6	27.3	2.8	20.2	2.8
東播磨	0.3	5.9	1.0	5.6	5.9	17.0	15.4	30.4	1.3	15.0	2.3
北播磨	3.8	10.8	1.4	3.8	4.9	15.6	16.0	20.5	1.4	18.4	3.5
中播磨	1.4	6.1	1.5	5.4	4.0	14.1	17.4	28.3	1.8	18.8	1.1
西播磨	3.0	10.1	1.8	3.9	3.6	9.2	13.1	26.5	1.2	23.5	4.2
但 馬	8.9	7.3	1.9	2.2	6.7	12.7	16.5	17.8	1.9	19.0	5.1
丹 波	12.1	10.1	0.7	2.3	4.7	16.4	16.4	15.8	0.0	16.4	5.0
淡 路	14.7	9.3	3.6	3.2	4.3	12.9	12.2	19.7	0.7	16.8	2.5

### (4) 世帯構成 (%)

	1人世帯	夫婦だけ(1世代)	親と子ども(2世代)	親と子と孫(3世代)	その他	無回答
全 県	7.5	24.1	52.8	11.7	1.8	2.0
神 戸	8.6	28.1	52.3	7.0	2.3	1.6
阪神南	11.7	24.4	54.9	5.6	1.5	1.9
阪神北	4.6	21.6	59.2	11.0	2.8	0.7
東播磨	4.2	24.2	60.8	7.8	1.0	2.0
北播磨	4.9	24.0	44.1	21.9	1.7	3.5
中播磨	5.8	22.1	51.1	17.0	0.7	3.3
西播磨	5.1	20.2	47.6	22.3	0.9	3.9
但 馬	8.9	17.8	40.0	28.3	2.5	2.5
丹 波	6.0	23.8	36.9	27.5	3.7	2.0
淡 路	11.1	17.6	38.7	28.3	2.5	1.8

### 未既婚 (%)

	既婚(配偶者あり)	既婚(離別死別)	未婚	無回答
全 県	71.6	12.0	16.1	0.3
神 戸	69.9	11.3	18.8	0.0
阪神南	66.2	11.7	22.2	0.0
阪神北	74.1	11.7	13.8	0.4
東播磨	76.5	9.8	13.7	0.0
北播磨	77.4	7.6	13.5	1.4
中播磨	70.7	18.1	10.9	0.4
西播磨	76.8	11.3	10.7	1.2
但 馬	70.5	12.7	14.6	2.2
丹 波	73.8	15.4	9.7	1.0
淡 路	71.3	15.1	13.3	0.4

(5) 家族構成 (%)

	乳児がいる世帯	幼児がいる世帯	小学生がいる世帯	中学生がいる世帯	高校生がいる世帯	65歳以上の人がいる世帯	あてはまる人はいない	無回答
全 県	2.5	10.7	13.9	8.7	8.8	42.4	33.2	1.4
神 戸	1.6	8.6	11.7	7.4	7.8	41.8	35.5	0.8
阪神南	3.8	8.6	9.4	6.4	5.6	32.7	44.7	1.1
阪神北	3.2	12.4	16.0	10.6	11.7	40.4	27.7	0.4
東播磨	2.0	12.1	17.6	9.5	9.5	34.0	35.9	2.6
北播磨	2.8	12.8	15.3	9.4	9.4	51.4	27.8	2.1
中播磨	3.3	13.0	18.5	10.1	9.8	41.7	29.7	2.5
西播磨	2.7	12.5	13.1	9.5	11.3	60.7	22.0	2.1
但 馬	1.9	13.3	16.2	10.5	10.2	65.1	19.7	1.0
丹 波	1.3	9.7	14.8	9.1	10.4	71.1	15.8	1.7
淡 路	1.1	13.3	16.8	13.3	10.4	61.6	22.6	1.1

(6) 居住年数 (%)

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	無回答
全 県	2.7	6.6	8.7	13.8	10.8	8.7	48.0	0.6
神 戸	2.3	6.3	9.4	16.0	14.5	10.2	40.6	0.8
阪神南	2.6	11.7	12.8	19.5	11.7	8.6	33.1	0.0
阪神北	4.3	7.4	9.9	16.3	8.2	10.6	42.6	0.7
東播磨	2.9	4.6	9.8	9.8	11.8	9.2	51.6	0.3
北播磨	3.5	4.9	3.8	10.4	4.5	5.9	66.0	1.0
中播磨	3.6	5.1	6.2	10.9	12.0	8.3	52.5	1.4
西播磨	0.9	2.7	3.0	7.1	5.7	5.1	74.7	0.9
但 馬	1.3	3.5	4.1	5.4	4.1	5.1	75.9	0.6
丹 波	1.0	3.4	2.0	5.7	5.4	3.7	78.5	0.3
淡 路	1.4	5.4	5.0	8.6	5.0	5.4	68.5	0.7

6 標本誤差

世論調査で無作為抽出法をとった場合は、数学的に標本誤差を計算することが可能であり、誤差の幅はサンプル数と得られた結果の比率などによって異なる。

今回の調査のサンプル数についての標本誤差の幅は、以下のとおりである。

(層化二段抽出、信頼度95%の場合)

誤差の算出式

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N - n}{N - 1} \cdot \frac{P(100 - P)}{n}}$$

例：サンプル数 3,040の場合

\* N：母集団 n：回答者総数 P：回答比率(%)

10% (または90%)	20% (または80%)	30% (または70%)	40% (または60%)	50%
±1.5	±2.1	±2.4	±2.5	±2.6